

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション【GSP・上級者用】		
科目区分	グローバル		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

Intercultural communication is an academic and also a practical field of study which started in the U.S in 1960s. The purpose of this course is to consider factors of miscommunication in intercultural contexts, deepen understanding of cultural diversity and nurture a positive attitude and respect towards people with different cultural backgrounds.

異文化コミュニケーションは1960年代のアメリカ合衆国で始まった学問的かつ実践的分野である。本コースの目的はクラスでの演習活動を通して、異文化の状況で起こるミスコミュニケーションの原因を探り、文化的多様性への理解を深め、文化的背景の異なる人々への肯定的態度、そして、敬意を醸成することである。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) Understanding theories and concepts of intercultural communication. (異文化コミュニケーションの理論と概念を理解できる。)

(2) Being aware of your "self" and your own culture. (自己と自文化に対する気づきを深めることができる。)

(3) Being aware of various aspects of different cultures and showing respect to cultural diversity. (異文化におけるさまざまな側面に対する気づきを深め、文化的多様性に敬意を表すことができる。)

(4) Developing your English communication skills through various class activities. (様々な授業内活動を通して英語コミュニケーション力を身につけることができる。)

* In this course English is used as a means of communication to fulfill the above goals. (本コースでは、英語をコミュニケーションの目的としてではなく、上記の目標を達成するための手段として使用する。)

提出課題

授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組み等、さまざまな課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストの結果に助言を与えたり、受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導する。スピーチの後で評価およびコメントを渡し、今後の注意すべき事項について助言、指導する。

評価の基準

(1) Homework (20%) (課題)
(2) Presentation (20%) (発表)
(3) Quiz (20%) (クイズ)
(4) Final Examination (30%) (定期試験)
(5) Class participation and attitude (10%) (授業態度)

*In order to pass this course, you must fulfill all the requirements written above.
*Details of class activities will be announced in the first class.
(単位取得には上記のすべての要件を満たす必要がある。授業活動の詳細は、第1回目の授業で説明する。)

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準すべての項目を総合して行うが、(1)から(4)のうち一つでも不参加の項目がある場合は不合格となり、単位は与えられない。

(2) 講師が入室したときに教室にいない場合は遅刻者と見なす。交通機関の延着など、特別な理由がない限り遅刻厳禁。

(3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定回数以上の欠席した場合は、単位は取得できないので、各自、自分の状況を把握しておくこと。詳細は第1回目のガイダンスで説明。

*第1回目の授業は授業内容やコース内で遵守すべきルールに関するガイダンス、その他、履修にあたっての重要な注意事項を伝えるため、必ず出席すること。

教科書	. Speaking of Intercultural Communication.	Peter Vincent	Nan'un-Do	¥1,900	978-4-523-17840-8

プリント資料及び参考文献

小テストとなるTOEICボキャブラリークイズの資料、テキストの内容に準拠した担当者作成のワークシートを配布する。

授業計画

回	授業計画
1.	Course guidance and pair work
2.	Unit 1 Communication & ICC activity (1), TOEIC Quiz 1
3.	Unit 1 Communication & ICC activity (2), TOEIC Quiz 2
4.	Unit 2 Culture & ICC activity(1), TOEIC Quiz 3
5.	Unit 2 Culture & ICC activity(2), TOEIC Quiz 4
6.	Unit 3 Nonverbal Communication & ICC activity (1), TOEIC Quiz 5
7.	Unit 3 Nonverbal Communication & ICC activity (2), TOEIC Quiz 6
8.	Unit 5 Culture and Values & ICC activity (1), TOEIC Quiz 7
9.	Unit 5 Culture and Values & ICC activity (2), TOEIC Quiz 8
10.	Unit 6 Culture and Perception & ICC activity (1), TOEIC Quiz 9
11.	Unit 6 Culture and Perception & ICC activity (2), TOEIC Quiz 10
12.	Unit 7 Diversity & ICC activity (1), TOEIC Quiz 11
13.	Unit 7 Diversity & ICC activity (2), TOEIC Quiz 12
14.	Unit 8 Stereotypes & ICC activity (1), TOEIC Quiz 13
15.	Unit 8 Stereotypes & ICC activity (2), TOEIC Quiz 14

*授業内容は毎回の進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

- ア：PBL（課題解決型学習）
- イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
- ウ：ディスカッション、ディベート
- エ：グループワーク
- オ：プレゼンテーション
- カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：テキストの各ユニットのエッセイの単語の意味の検索および読解、各ユニットに関する担当者作成のワークシートに取り組み、次回のTOEIC単語クイズの準備（2時間）

復習：その日に学習した内容の復習（ワークシートの添削箇所を確認、テキストのエッセイのリスニング、リーディングセクションの音読を含む）（2時間）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向の授業の実施：演習活動の際に各受講生を指名し、解答をさせ、フィードバックや解説を行う。スピーチの発表の後にパフォーマンスに関してコメントし、助言、指導をする。テキストのテーマに関連した異文化間コミュニケーションの理論について解説し、ディスカッションを実施する。

実務経験の有無及び活用

備考

テキストを持参せずに受講した場合、単位は認定されない（コピー持参不可）。第1回目の授業までにテキストを購入しておくこと。受講生の真摯、かつ、積極的な参加を希望する。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。